



**STANDARD
TOKYO**

2022年4月28日

各 位

会社名 HS ホールディングス株式会社
 代表者 代表取締役社長 原田 泰成
 (コード 8699 STANDARD)
 問合せ先 取締役 松村 恭也
 TEL 03-4560-0398(代表)

**2022年3月期業績と2021年3月期業績との差異並びに
 剰余金の配当に関するお知らせ**

2022年3月期(2021年4月1日～2022年3月31日)の業績と前期(2020年4月1日～2021年3月31日)の業績との間に差異が生じました。

また、本日開催の取締役会において、2022年3月31日を基準日とする剰余金の配当を、2022年6月28日開催予定の第65回定時株主総会に付議することを決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2022年3月期の業績と2021年3月期の業績との差異について
 (連結業績)

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株式に 帰属する 当期純利益
2022年3月期の連結業績 (A)	61,566	15,993	17,813	6,545
2021年3月期の連結業績 (B)	57,755	8,871	9,723	△3,015
増減額 (C)=(A)-(B)	3,811	7,122	8,090	9,560
増減率 (%)	6.6%	80.3%	83.2%	—%

(個別業績)

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
2022年3月期の個別業績 (A)	11,911	11,446	12,453	13,149
2021年3月期の個別業績 (B)	999	687	1,173	106
増減額 (C)=(A)-(B)	10,911	10,759	11,279	13,043
増減率 (%)	—%	—%	961.0%	—%

2022年3月期の連結業績は、主に、銀行関連事業において増収増益となりました。モンゴル経済の回復により資金運用収益が増加するとともに、モンゴル政府が実施した施策により普通預金・当座預金に対する利息の支払いが免除されたことから営業費用である資金調達費用が大きく減少し、営業利益・経常利益は大幅な増益となりました。なお、前期では、ハーン銀行の留保利益に対する税効果の認識により、法人税等調整額(損)が約74億円計上されたことなどから、親会社株主に帰属する当期純損失となっております。

個別業績につきましては、主に、ハーン銀行からの配当金約44億円及びエイチ・エス

証券からの配当金約 51 億円を営業収益に計上したことから、大幅な増収増益となっております。

2. 剰余金の配当の内容

	決定額	直近の配当予想	前期実績 (2021年3月期)
基準日	2022年3月31日	同左	2021年3月31日
1株当たり配当金	10円00銭	未定	12円00銭
配当金総額	312百万円	—	475百万円
効力発生日	2022年6月29日	—	2021年6月30日
配当原資	利益剰余金	—	利益剰余金

当社は、業績に対応した利益還元を行うことを基本方針としておりますが、今後の事業展開と経営体質の強化、財務内容の充実を図るために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当を継続していく方針であります。

当期の配当につきましては、自社株買いの実施、新型コロナウイルス感染症やロシア・ウクライナ問題による国内外経済の悪化に対する備え、今後の事業展開に備えた財務内容の充実などを総合的に勘案し、1株当たり10円の普通配当（前期は1株当たり普通配当12円）を2022年6月28日開催予定の定時株主総会に付議する予定です。

なお、次期（2023年3月期）の配当につきましては、業績予想を合理的に行うことが困難であることから、予想配当額を開示しておりません。

以 上